様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	教員養成特別コース／江川克弘

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1．目標・計画

①について
授業内容は，理論的背景を説明できかつ，教育現場の実践に活かせるものであるべきだと考える。特に，児童の見方・支援の仕方」や「授業設計の仕方」については，「応用行動分析」や「逆向き設計」の理論と実践について詳細に取り上げたいと考えている。
②について
自分の研究と小学校での実践経験を生かし，「応用行動分析」や「逆向き設計」の理論的背景を講義し，実践でのモデルケースを示そうと考えている。その後，ケーススタディや実習での振り返りを通じて，学生自身が適用できるようにしていきたいと考えている。
③について
ケーススタディなどでの発言や実習中の実践から総合的に判断すべきであると考えている。その際，学生の発言や実践については問い返しを行い，どのような理論的背景に基づくものであるのかを見極める必要があると考える。

2．点検・評価

「児童の見方・支援の仕方」や「授業設計の仕方」については「応用行動分析」や「逆向き設計」の理論と実践を自分の小学校での教師経験を踏まえて講義やゼミで詳細に説明を行った。また，ケーススタディや実習での振り返りを通じて，学生自身にそれらの理論の適用の仕方を考えさせたり，実際に教育現場で行わせることによって，ある程度の適用力を身に付けさせることができたと考える。そのため，ケーススタディや実習での振り返りの際には，学生が実際に行ったことに関してその理由の説明を求めると，理論的背景を基に説明することができるようになっていた。また，実習校の校長先生やメンターの先生から，学生の児童理解や授業実践に関して高い評価を得ることができた。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

私の今までの研究と小学校での実践経験を生かして，実践に役立つ事柄について，理論的背景を明確にしながら説明していきたいと考えている。また，授業で学んだことを，実践にどう生かしていけるのかについても学生に考えさせたり、ディスカッションさせたり、実習で試させ省察させたりして、学びを深められるようにしていきたい。

さらに，学生の教員採用試験対策（主に、一般教養、小学校全科、教職教養、面接対策）について綿密に計画し，1人でも多くの合格者を出したいと考えている。

2．点検・評価

後期の授業は実習とその振り返り(ゼミ)が中心であったので，学生が教育現場で出会った実際の出来事を題材に授業を行った。具体的な事例を基に，その見立てや具体的方策，教師としての心構えなどにについて学生に考えさせ，学生とのディスカッションを通じて具体的なアドバイスを行った。その際，理論的背景や私の小学校での実践経験を基に詳細に説明したので、学生は現場でうまく対応できるようになったようである。そのため、実習先の校長先生やメンターの先生から高い評価を得ることができた。また、最終成果報告書の内容から，学生が自分の目指す教師像を少しでも明確にすることができたと考える。

教員採用試験対策は継続的に行うとともに，コース全体で今年度の総括を行い，次年度の教員採用試験対策についての具体的方策を決めることができた。

Ⅱ－2．研究

1．目標・計画

昨年度は博士号を取得する予定であったが，博士論文を大幅に加筆することになり，博士号を取得することはできなかった。今年度は博士号を取得することが目標である。博士論文の加筆は昨年度に終了しているので、春に所属していた研究科内の博士論文審査を受ける。そして，夏には公聴会を開き，秋には博士号を取得したいと考えている。

2．点検・評価

2014年3月24日に大阪市立大学から博士(学術)の学位が授与された。

Ⅱ－3．大学運営

1．目標・計画

今年度は教職大学院（教員養成特別コース）のカリキュラムが変更され，学部（学校教育実践コース）も1～3回生までの学生を指導することになる。大学教員2年目であるが，仕事の内容が新しいものがほとんどなので，1年間の仕事の内容や流れを把握したいと考えている。また，コースの諸先生方と協同して授業を実践し，自分の授業の効果はもちろん，カリキュラム全体としての効果も省察し，学生に資するようにしたいと考えている。
また，教員採用試験対策も綿密に計画して行い，教員採用試験合格者数を増やしたいと考えている。それだけでなく，採用試験結果から，教員採用試験対策を振り返り，より良い教員採用試験対策ができるようにしていきたいと考えている。

2．点検・評価

教職大学院における新カリキュラムでの指導の流れ（1年目）を把握することができた。新カリキュラムのもとで自分の行った授業やゼミは，学生の意見や実習での学生の言動から，概ね，学生にとって有益であったと考えられる。中間報告でも記述したように，授業において自分の伝えたい事が焦点化してきたので，すでに新年度の授業の内容をブラッシュアップし，コースの先生方とも協議を行って決定している。その際，新カリキュラムにおける位置づけや我々が育てる教員像を基に授業計画を立案している。新年度は大学院1年の担当をすることになったので，今年の成果を十分に生かすことができると考える。
学部の授業やゼミでは，主に授業設計・実践についての指導を丁寧に行ったので，学生の授業を見たり考えたりする視点が鋭くなったと感じている。また，学生からも授業力向上を実感しているという意見が聞かれた。
今年度の教員採用試験対策は充実していたので，大幅に合格者を増やすことができた。しかし，課題もあったのでコースで話し合い，新年度の教員採用試験対策の方針並びに具体的方策を決定した。

Ⅱ－4．附属学校・社会との連携，国際交流等

1．目標・計画

鳴門市の実習協力校へ積極的に出向き，学生の指導だけでなく，現場の先生方の話を聞き，教育現場での問題を解決する支援をしたいと考えている。特に，私は学習苦手児への指導(学習指導・生活指導両面にわたって)については実践も研究も行ってきているので，そのような問題については積極的に関わっていきたいと考えている。
また，教育支援講師・アドバイザー等派遣事業にも参加しており，昨年度より，支援内容を増やしているので，依頼があれば積極的に出向き，教育現場のお役に立ちたいと考えている。

2．点検・評価

学生が実習でお世話になっているクラスの学習苦手児や問題行動を起こす児童への対応を学生にアドバイスすることによって学校現場に寄与できたと考える。実習校の校長先生やメンターの先生から，学生の子どもへの対応（学習面・生活指導面）が素晴らしいため，教師としての資質が向上した，安心してクラスを任せられた等，お褒めの言葉をいただいた。
　また，教育支援講師・アドバイザー等については，北井上小学校における校内研修会での指導・助言を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献（特記事項）